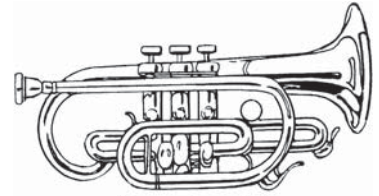


連発ピストル。

**コルネット**(名)〔cornet〕〔音〕金管楽器の一つ。トランペットに似るが、前後が短い。やわらかい音色を出す。



〔コルネット〕

**ゴルフ**(名)〔golf〕クラブで、ボールを打ち、順々にコースにある十八のホール〔凹〕に入れて勝負を争うスポーツ。「―パンツ〔凹〕ゴルフ用のズボン」・「―場」・「―リンク(ス)〔名〕〔golf links〕ゴルフ場。ゴルフコース」。

**ゴルフファー**(名)〔golfer〕ゴルフをする人。

**これ**〔×此れ〕・〔×之〕・〔△是〕**■**(代)①自分に近いものを指し示すことば。「―は母の形見です」②この〈人〉者。「―は私のせがれです」▽(↓それ・あれ)③すぐ前の話(に出したものと)に焦点シヨウテンを当てて言うことば。「だれも見なかったと言う。―がふしぎである。―らの問題点」↓:それ③。④今、このとき。「―からのことを考える。―までのことは水に流して」⑤〔文〕こ。「―にひかえて」〔待って〕おれ**■**(副)口調を強めるときに使うことば。「弁明―つとめる・準備の都合も―あり」**●**これ有るかな**■**〔文〕これなくっちゃ。待つてました。**●**これ幸い**■**〔文〕これはちよほどよかった。「授業が休みになったので、―と街に出た」**●**これでもか**■**①何度もしつこく責めたり攻撃(コウゲキ)したりするようす。「―と相手をなぐる」②十分すぎるほどあたえたり見せたりするようす。「―というほどたくさん料理が出た。―という厚化粧(アツゲシヨウ)」**●**これより先**■**〔文〕この時よりも前。この時以前。**●**これをもって**■**〔文〕これで。「これをもって」**■**は、ていねいな言い方。「―式を終了(シユウリヨウ)いたします」**●**これを要するに**■**〔文〕これをまとめて言うこと。要するに。

**これ**(感)〔此これ〕〔話〕よひかけるとき、軽くしかるとき、注意するときなどのことば。「〔この〕よりは上品」

コルネット ▼ ころ

ごれい「語例」(名) 単語の用例。

ごれいかい「互礼会」(名) ある団体の人々が集まって、新年のあいさつをしあう会。「新年―」

ごれいぜん「御霊前」(名) ①死んだ人のみたまの前。②みたまの前に供える供物(クモツ)・香典(コウデ)などに書くことば。「仏式では、ふつう四十九日の前まで使う」

これから(名・副) 今、このときから。「―がたいへんだ。―という時」

これきり(名・副) ①これだけ。「残り―」②これで終わり。「もう―にしよう」▽これ(きり)。

コレクシヨン「名・他サ」〔collection〕〔趣味〕シユミなどで集めたもの。集めること。収集(品)。**■**(名)「フ collection 作品」〔シーズン前に開く〕高級な流行服の新作発表会。ショー形式でおこなう。「ペリー」

コレクター(名)〔collector〕収集家。

コレクティブハウス(名)〔和製 collective house〕共用のスペースをもち、複数の家族で食事や育児などをともにできるようにした集合住宅。

コレクトコール(名)〔collect call〕〔電話で〕料金受信人(ばらい)の通話。

コレクトマニア(名)〔collectomania〕収集狂(キヨウ)。

これこれ**■**(代) 多くのものごとを一つ一つとりあげる代わりに言うことば。しかじか。「理由は―だ。―こういうわけで」**■**(感)「話」目下の人に注意するときなどに使う呼びかけのことば。「〔この〕よりは上品」

これしき(名)〔俗〕これ(きり)。「―のこまでへこたれるな」

コレステロール(名)〔cholesterol〕〔生〕細胞(サイボウ)のはたらきを保ち、ホルモンの材料になる、脂肪(シボウ)に似た物質。この血中濃度(ノウド)が高くなると、動脈硬化(コウカ)を引き起こすものになる。コレステリン(cholesterin)。「―の多い食品」↓:HDLコレステロール・LDLコレステロール。

これっぽち(名・副) (俗)これだけ。これっぽち。「すこしかないことについて言う」

これという「これと(言う)」「イフ(連語) 特に取り立てて言う(ような)。「―変化も見られない。これといって変わった症状(シヨウシヨウ)もない」

これは**■**(連語) 特によい。特にすぐれている。「―と思う人物」**■**(感)「話」強い感動をあらわす。こりや。「―しまった。―気づかなかった」**●**―これは(感)「話」ひどくおどろいたり、恐縮(キョウシユク)したりしたときのことば。「―みなさんおそろいで」**●**―したり(感)「古風」意外なことに気づいたときのことば。これはおどろいた(あきれた)しまった。「いや、―、どうしたんだね」↓:したり。

こればかり(連語) たったこれだけ。これっぽかし。これっぽかり。

これほど(副) このように強い程度。こんなにまで。「―(ひどい)とは思わなかった。―言ってもわからないのか」

これまで(連語) ①今まで。②こままで。③これで終わり。「きょうは―」

これみよがし「これ見よがし」(名)「見よがし↑」見るの命令形「見よ」+終助詞「かし」これをみると言わんばかりに。得意そうにふるまうようす。「―にさわぎ立つる」

これもの(名) しぐさで示す、(好ましくない)ことがら。例、手刀(テガタナ)で首を切れば解雇(カイゴ)。これもん。「―やべれば―」〔解雇〕

これもん「これ(者)」(名) (俗) ①やくざ。「顔にきずあとのあるしぐさで示したことから」②これもん。

コレラ(名)「オ cholera 虎列刺」〔医〕コレラ菌(キョウ)によって小腸(コウ)がおかされる急性の感染症(カンセンシヨウ)ウ。ころち。

ころ「頃」**■**(名) ①〔文〕時期。時分。「―もよし、花見にでも行くか」②その(時期)時刻。「子どもの―。もう帰る―だ」**■**(造語)「―頃(コロ) ①だいたいその時分。…ころ。「六時―五月―春―」②ちよろどよい(時期)状態。「食べ―見―」

ころち。ころち。

のせまい性格。

しましま(×)縞々(名)

しま模様。「一」のシャツ

しまだ(島田)(名)↑島

田まげ。髪方ミを「一」に

ゆう)・一まげ(島田

(×)鬘(名)おもに未婚

(ミコン)の女性がゆった日本髪(ガミ)。

↓::高島田。

しまだい(島台)(名)

蓬萊山(ホウライサン)の

形をまねた、祝儀(シユウ

ゴ)のかざり物。

しまつ(始末)(名)

他サ)①(文)はじめと

おわり。はじめからおわり

までの事情。「脱走(ダ

ツソウ)ゲーム記」②

「結果としての(悪い)ありさま。「この一です」③かた

づけること。処理すること。「一をつける・火の一をする・

布の端(ハシ)がほつれないように一する・裏切り者を一

する(「殺す)」④(名)他サ・形動ダ)「古風(儉約(ケ

ンヤク)。「一して使う・一人人・一がいい・一屋(「しま

りや)」「始末が悪い(句)あつかうのに困る状態だ。

手にあまる状態だ。●始末に負えない(句)その人の

力では処理ができない。●一しょ「始末書」(名)

「事故不始末をわびるため」事情をくわしく書いた文

書。

しまった(感)「話」しくじった。困ったことになった。

「一、一足おそかった」(↓しめた)

しまづたい(島伝い)「ツタヒ(名)島から島へとわた

つていくこと。「一に舟(フネ)を進める」

じまど(地窓)(名)「部屋やろうかの(外)に面する下の

ほうにつけた、そうじ用の小さい窓。はき出し窓。

しまながし(島流し)(名)①遠島。流罪(ルザイ)。

②(俗)遠いへんぴな土地に転勤させられること。

しまぬけ(島抜け)(名・自サ)島流しになった罪人



[しまだまげ]



[しまだい]

しま

が、島をそつとぬけ出すこと。また、ぬけ出した罪人。島

破り。

しまびらき(島開き)(名・自サ)①無人島を、キャン

プ用に公開すること。②島をあげて祭りの行事をおこ

なうこと。「佐渡(サド)の一」

しまへび(×)縞蛇(名)「動」へびの一種。からだは黄

色で、頭から尾(オ)の方向に黒いしま(縞)がある。無

毒。

じまま(自)(×)儘(名・形動ダ)自分勝手。気まま。

しまめ(×)縞(目)(名)しまの織物の、色や模様のぐあ

い。

しまもり(島守)(名)「文」島の番人。

しまやぶり(島破り)(名)↓島抜(又)け。

しまらない(縞まらない)(形)①緊張(キンチョウ)感

がない。しまりがなく。「一顔」②ぶさまで、なげない。

だらしない。「へまなことをしたときなどに言う」「一話

派生)縮まらない。

しまり(縮まり)(名)①しまること。②ひきしまること。

緊張(キンチョウ)。「一がない」③戸じまり。●一や

「縮まり屋」(名)儉約家(ケンヤクカ)。しまつや。

しまる(閉まる)(自五)①内と外が分かれるように、

ぴったりとさえぎられる。「戸が・ガスの栓(セン)が」

②「錠(ジョウ)が」かかる。③「営業が」終わる。「休み

廃業(ハイギョウ)になる。「日曜は問屋が閉まっている」

△(↑開(ケ)く・開(ヒラ)く)名)閉まり。

しまる(絞まる)(自五)「巻きつけられたり、おさえつけ

られたりして」首などにまわりから強く力を加えた状態

になる。「首が」

しまる(縮まる)(自五)①ゆるんだところがなくなる。

「ボルトがしつかりと」②かたく結ばれて、とけない状

態になる。「ひもが」③肉がかたくつまる。「縮まった

からだ・身が縮まったさかな」④「気持ち」がひきしま

る。「縮まって行こう!」⑤むだづかいをしなくなる。

△(緩(ユル)む)↓::縮まらない。

じまわり(地回り)「マハリ(名)①近在をいつも回っ

て歩くこと(商人)。

②(俗)ならず者がさかり場をう

ろつこと。また、そのならず者。

じまん(自慢)(名・他サ)「他人に対して」自分のこと

を、自分でりっぱだと思おうようを見せること。「一話

力」・一高慢(コウマン)ほかの内」派生)自慢げ。

●一たらしい「自慢たらしい」(形)いかにも自慢す

るようすだ。

しまんろくせん(四万六千日)(名)《仏》観

音(カン)の縁日(エンニチ)。七月十日。この日に参拝

すると、ふだんの四万六千日分に当たる功德(トク)が

さずけられるという。

しみ(魚)・紙魚(名)《動》和紙を使った本や

衣服を食いあらず昆虫(コンチュウ)。からだは細長く、銀

白色。例、ヤマトシミ。

しみ(染み)(名)①しみてよごれたあと。「一がつく・油

の」・一ぬき」②ホルモンの作用や老化によって皮膚

(ヒ)の表面にあらわれる、茶色のまだら。

しみ(詩味)(名)「文」詩の(あじわい)おもむき。

じみ(滋味)(名)「文」ゆっくり味わうとわかる、深い

〈あじ)印象。「一きく(掬)すべき名作」

じみ(地味)(形動ダ)①はなやかでなく、目立ったと

ころもないようす。(↓派手)②「俗」(「一」の形で)

おもてにはっきり出さないが。「一にうれい」・一に痛

い」・一に値上げして」派生)地味さ。

シミーズ(名)「フ(chemise)」《服》↓シユミーズ。

しみいる(染み入る)(自五)「文」しみこむ。

しみこむ(染み込む)(自五)中までしみる。

じみこん(地味)婚(名)「俗」結婚式・披露宴(ヒロ

ウエン)の費用をひかえめにする。こと。(↑派手婚)

しみじみ(副)深く心にしみて。しんみり。「一(と)思い

出す」

しみず(清水)「ミヅ(名)地中や岩の間などからわき

出る、澄(ス)みきった水。「こけ(苔)一」

じみち(地道)(形動ダ)目立つことなく、手がないよ

うす。着実。「一な研究」派生)地道さ。



たぶん▼たま

たぶん「他聞」(名)「文」他人が聞くこと。ひととき。「一をはばかる」

たぶん「多分」(名) ①たたくさん。「一のお志をいた

だぶん「駄文」(名)「つまらないまずい文章。「自分の文章をけんさんして言うこともある」

たべあるき「食べ歩き」(名) ①名物料理やおいしいものを、あちこち食べて歩くこと。②「俗」「食べ歩き」の記事。「全国ラーメン」

たべあわせ「食べ合わせ」アハセ(名) くいあわせ。たべかす「食べ×滓」(名) ①食べ残し。「食器や一でよごれたテール」

たべがら「食べ殻」(名)「弁当など」食べてからになった入れ物やくだもの皮など。

たべごたえ「食べ応え」ゴタへ(名)「食べたときに」量として十分であること。「一のある豚(トシ)カツ」

たべこぼす「食べ×零す」(他五)「食べ物を口や手から落として周囲をよごす。「菓子(カシ)をぼろぼろと」

たべごろ「食べ頃」(名)「食べていちばんおいしい(時期)時節」。「みかんの」

たべざかり「食べ盛り」(名)「成長期の子どもが」いちばんごはんを食べる時期。

たべさせ「食べさせる」(他下一)「やしなう。食わせる。食べさす。「家族を」

たべざらぬ「食べ初め」(名)「↓くいぞめ」

たべちらす「食べ散らす」(他五)「あれこれ箸(ハシ)を

た

つけて、きたなくする。食べちらかす。食い散らす。たべで「食べで」(名) くだい。「一がある」

たべもの「食べ物」(名)「生きていくために」食べるもの。しよくもつ。「明日の」にも困る」

たべよごし「食べ汚し」(名)「食べちらしたものを」入れる。「まんじゅうを」ごはんを「食事を」

たべる「食べる」(他下一) ①食物を「食事を」する。②生活する。「この給料では食べていけない」③「古風」(酒を)飲む。「そちは、さき(酒)は」か「ふつう」食う」と言う場合に「食べる」と言うことがある。「自動車」がすぐエネルギーを「食う」。

たべん「多弁」(名・形動ダ)「文」口数が多いこと。多言(タゲン)。「一をいましめる」

だべん「駄弁」(名) くだらないおしゃべり。むだ口。「一を弄(ロウ)する」

たば「鬚」(名) ①日本髪(ガミ)の、うしろのほうに出た部分。②「俗」(商売)女。

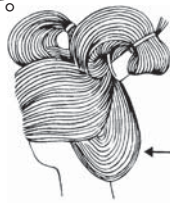
だほ「拿捕」(名・他サ)「敵の」船などをとらえること。捕獲(ホカク)。

だぼ「俗」短く突(ツ)き出た(部分)もの。突起(トツキ)。②「動」↑だぼはぜ。

たぼう「他方」(文)「名」他の方向。もう一方。「一から見ると」では「接」(それに対して)別のほうからみると。もう一方では「型にとらわれてはならない。一、型を守ることも大切だ」

たぼう「打法」(名)「野球・ゴルフなどで」打ち方。だぼう「打棒」(名)「野球で」バット。打撃(ダゲキ)。「一大きい(ぶらう)」

たほうめん「多方面」(名・形動ダ) 多くの方面。「一大きい(ぶらう)」



[たば ①]

だぼく「打撲」(名・他サ)「文」打つこと。たたくこと。「一傷」打たれて、また、打ちつけて、皮膚(ヒダ)の下に受けたきず。うちみ」

だぼシャツ「ダボシャツ」(名)「俗」やし(香具師)などが着るシャツ。ゆったりした短い筒(ツツ)そで、えりがなく、前をボタンでとめる。

だぼはぜ「だぼ(鬚)」(名)「ダボハゼ」も書く ①「動」川口付近などにすむ小形のハゼ。せなかは黒っぽく、腹は灰色。形はみにくい。えきにすぐ食いつく。だぼ

だぼら「駄(法)×螺」(名)「俗」いかにもいいかげんだとわかるようなほら。でたらめ。「一をぶく」

だぼん「駄本」(名) くだらない本。

たま「玉」(名) ①まるい形をしたもの。「目の」パチンコの「一」の「大つぶの」汗(アセ) ②レンズ。「めがねの」 ③電球や蛍光灯(イコウ)灯。「一が切れた」 ④うどんなどのめんをまるめたもの。「温」 ⑤美しいものをほめて言うことば。「一のような子」のかんばせ(「きれいな顔」)の「はだえ(「きれいなはだ」) ⑥とうといもの。「一のみ声」 ⑦ネコにつける代表的な名。⑧「俗」美しい女。⑨「俗」人物。「たいした」だ」 ⑩「俗」(企業(キギョウ)で)商品や企画。「一がな

い」 ⑪「俗」きんたま。⑫「俗」いのち。「一を取る(「殺す」) ⑬「造語」 ①たまご。「ハム」サンド・かに他は、たま。②「一玉」(たまごのはいったお好み焼きのたね。天。「ぶた」)

たま「玉・珠」(名) ①「壁」(まるい形をした)宝石・真珠(シンジュ)など。「一の」玉で作った「さかずき」 ②そろばんの軸(ジク)にはめこみ、上下に動かして数をしめすもの。●玉にきず ③すぐれたものなのに、わずかな欠点があるというたとえ。●玉磨(ミガ)かざれば光(ヒカリ)なし ④「文」すぐれた才能があっても、努力して学ばなければ、りつばな人になることはできない。●璧を懐(イダ)いて罪あり ⑤「文」身分不相応な宝を持

×は常用漢字外 △は常用漢字の音訓外 ●は当て字など ○の中は仮名書きにして(も)よい

こした格子模様のある布地。

ワッペン(名)〔ト Wappen〕紋章(モンショウ) ①ブレザーなど、衣服の胸・うでにつける、織物製のマーク。エンブレム。②胸につける、目じるしのマーク。

わて(代)〔関西・北陸方言〕わたし。

わとう(和陶)〔名〕〔文〕日本ふうの陶器。(↑洋陶)

わとう(話頭)〔名〕〔文〕話題。●話題を転じる(回)

〔文〕話題を変える。

わどう(話道)〔名〕〔文〕話術のみち。

わどく(和独)〔名〕 ↑和独辞典(『日本語の見出しに、ドイツ語をあてた辞典』)。(↑独和)

わとじ(和綴じ)〔トヂ(名) 和本のとじ方(をした)書物。大和(ヤマト)とじ。四つ目とじ・亀甲(キッコウ)とじなどがある。〕

わな(〔x〕罫)〔名〕①鳥やけものをおびき寄せてつかまえるしかけ。②人をおとしいれる計略。―にかける

わな(〔x〕輪奈)〔名〕糸・ひもなどを輪のようにまとめるためのループ。わさ。―に通して結ぶ

わな(連語)〔方〕あたりまえだ、とひとりごちのように言うことば。―のことばではない―どうせなら行きたい―

わなげ(輪投げ)〔名〕立てた棒に、はなれたところから輪を投げ入れる遊び。

わななく(自五)〔からだか〕がたがたふるえる。「おそろしさに―」〔名〕わななき。他動 わななかせる(下)。

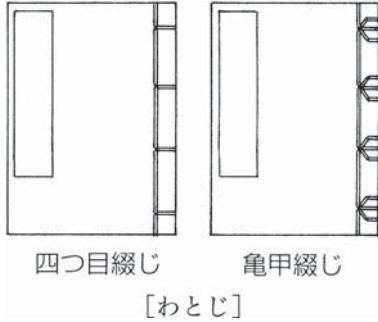
〔くちびるを―〕

わなま(和生)〔名〕日本ふうの生菓子(ガシ)。

わなわな(副・自サ) わななくようす。「こわくて―とふるえる」

わに(〔x〕鱈)〔名〕①〔動〕形はトカゲに似ているが、ひじょうに大形の動物。熱帯の水べにすむ。皮を利用する。

ワッペン ▼ わほう



〔アリゲーター・クロコダイルに大別される〕 ②〔山陰(サニン)方言〕〔動〕さめ(鮫)。

わにあし(〔x〕鱈)足(名) 歩くとき、足首の方向がなめになること人。「そとわに」うちわにがある。

わにがわ(〔x〕鱈)皮(名) ガハ(名) ワニの皮。黒茶色でつやがある。かばん・がまぐちなどに使う。

わにぐち(〔x〕鱈)口(名) ①〔仏〕仏堂・拝殿(ハイデン)などの前ののきにつるし、参拝者が鳴らす、平たい鉦(カネ)に似たもの。下に広いさげめがある。②ひどく横に広い口。



わにさめ(〔x〕鱈)鮫(名) 〔動〕〔方〕ふか(鱈)。

ワニス(名) [varnishの变化] 〔理〕↓ニス。

わぬの(和布)〔名〕 和服の生地(キジ)のはぎれ。「パッチワーク」

わね(連語) ①〔女〕相手に知らせて、同意を求めることば。「お茶を入れてあげる」「〔ね〕を高く言う」 ②〔話〕感動をしめして、同意を求めることば。わねえ。「よく来たー」〔女〕・だいいじなのは実用性ですー〔男〕

〔ね〕を下がり調子に言う

わのり(輪乗り)〔名〕〔馬術で〕輪をえがくような形に、馬を乗り回すこと。

わはは(副) 大声で笑う声。「―と愉快(ユカイ)に笑う」

わび(〔x〕侘び)〔名〕 〔茶道・俳句で言う〕しずかでおちついた、簡素なおもむぎ。閑寂(カンジヤク)。「―の境地」

わび(〔x〕詫び)〔名〕 わびること。謝罪。「お―がかなう」 ● わびを入れる(回) あやまる。

わびい(〔x〕詫び)入(自五) 心からあやまる。ていねいにわびる。

わびごと(〔x〕詫び)言(名) わびることば。

わびしい(〔x〕侘び)形(名) ①なぐさめてくれるものがなくて、心がしずむようだ。「わびしく暮らす」 ②ものさびしい。「人けのない―風景」 ③まずしくて、さむざむとした感じだ。「―食事」 派生 侘びしげ。侘びしさ。

わびじょう(〔x〕詫び)状(名) おわびの手紙。

わびじょうもん(〔x〕詫び)証文(名) 〔文〕相手に対して失礼なことをしたおわびのしるしに書く文書。

わびすけ(〔x〕侘助)〔名〕 〔植〕ツバキの一種。冬、赤白くて小形の花をひらく。

わびずまい(〔x〕侘び)住まい(名) ①わびしく住んでいる家(のようす)。②ひっそりと住んでいる家(のようす)。

わびちゃ(〔x〕侘び)茶(名) 華美(カビ)をしりぞけ、わびの境地を求める茶の湯。千利休(センリキユウ)が大成した。

わびね(〔x〕侘び)寝(名) 〔文〕わびしくねること。「―のつらさ」

わびる(〔x〕侘びる)〔文〕 ①(自上一) わびしくなる。「わびた(二)はではないが、心をひかれるよさのある」ひな歌」(他上一) 〔動詞のあとについて〕 ①さびしく…する。「住み―」 ②…しながら、気をもむ。「待ち―たずね―」

わ・びる(〔x〕詫びる)〔他上一〕 あやまる。謝罪する。「ごぶさたを―」

わふう(和風)〔名〕 ①日本に昔からある様式。日本ふう。「―建築」(↓洋風) ②〔文〕あたたかい風。春の風。

わふく(和服)〔名〕 (日本に昔からある)着物。「―姿」(↓洋服)

わふつ(和仏)〔名〕 ↑和仏辞典(『日本語の見出しにフランス語をあてた辞典』)。(↓仏和)

わぶん(和文)〔名〕 ①日本語の文章・文字。「―英訳」和訳(『わかりやすい日本語に書き直すこと』) (↓欧文(オウエン)) ②平安時代の、かな書きの文章。「漢文や和漢混交文に対して言う」

わへい(和平)〔名〕 〔文〕仲なおりして平和になること。「―交渉(コウショウ)」

わへい(話柄)〔名〕 〔文〕話すことから。話題。

わほう(話法)〔名〕 〔文〕 ①話し方。「セールス―すくれたー」 ②自分の話や文章の中で、他人の話を再

わ